



新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

2023年が皆様にとりまして希望に輝く1年となる事を祈念いたしております。公益財団法人慈愛会今村総合病院は、今年も各医療機関・介護施設の皆様と一緒に地域住民に安心できる医療を提供できるように職員一同が全力を挙げ努力する所存です。何卒宜しくお願ひ申し上げます。

2022年には、手術支援ロボット“Da Vinci Xi”を購入し、泌尿器科と消化器外科で運用を開始いたしました。前立腺がんに対する小線源治療も開始しております。総合内科(ER)は、後期研修医を含む若手が増え24時間365日体制で対応します。4月には新たな初期研修医が入職する予定です。脳卒中センターでは、血栓回収術が順調に行われております。血液内科・循環器内科・腎臓内科・消化器内科・放射線科・精神科・リハビリ科等内科系の診療科も専門性の高い診療が提供できるように頑張っています。2022年5月に垂水市と包括連携協定を締結しました。現在産婦人科を中心に母子健康に関する相談を受けています。泌尿器科・消化器外科・脳神経外科・整形外科・眼科・皮膚科はレベルの高い技術で対応しております。スポーツ整形外科・スポーツリハは、2023年秋の鹿児島国体・全国障害者スポーツ大会で医療サポートを行う予定です。

医療分野で遅れていたDX(デジタルトランスフォーメーション)の推進が加速します。医療のサービスの効率化・質の向上により、保健医療の向上と最適な医療を実現するために、医療DX推進本部が内閣に設置されました。オンライン資格確認、オンライン診療等が含まれます。電子処方箋の運用は2023年1月に始まり、電子処方箋の発行には医師資格証が必要となります。複数の医療機関・薬局の薬剤の情報を閲覧でき、重複投薬等の抑制・疑義照会件数の削減、業務の効率化が出来るようになるそうです。

医療情報ネットワークの構築も検討されています。病院や薬局、介護施設などの間で患者さんの医療情報を共有・閲覧できるネットワークが構築されれば、医師は初診の患者さんが以前に通っていた病院のカルテを閲覧することも可能です。患者さんは自身の保健医療情報(PHR: Personal Health Record)を活用する事ができるようになります。

デジタル化がかなり速いスピードで進みますので、この変化にしっかりと対応していきたいと考えています。医師会を中心に情報提供が行われていますが、2022年6月から慈愛会理事長の今村英仁が日本医師会常任理事として活動しておりますので、出来るだけ得られた情報を速やかに発信していきたいと考えています。

医師の働き方改革は、2024年4月1日から施行される改正医療法により、医師に対する時間外労働の上限規制が適用される事になり、そのため勤務医を抱える医療機関ではこの対策が必要となります。医師の健康管理が目的ですが、地域医療の継続も必要です。約1年間の猶予がありますので今村総合病院でも対応できるように準備を行っています。

2022年11月に日本医療マネジメント学会第20回九州・山口連合大会を開催し、日本の医療を牽引されるトップレベルの先生方に講演をしていただきました。“マネジメント”とは、「経営」や「管理」という意味で使われる事が多いですが、“マネジメント”の基本は他者への配慮・愛情(利他の心)とも言われています。学会でも多くの方々との出会い(邂逅・御縁)の機会をいただきました。2023年も多くの医療・介護機関の方々との連携をより緊密なものにしていきたいと考えておりますので何卒宜しくお願ひ申し上げます。

今村総合病院
院長 帆北 修一



〈ご予約・お問い合わせ〉 **今村総合病院 TEL.099-251-2221 (代表) まで**



血液内科のご紹介

急性白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫といった血液のがん。
再生不良性貧血・血小板減少性紫斑病などの良性血液疾患。
血液疾患の診断・治療を行っています。



血液内科 主任部長
伊藤 能清

診断

- 造血器悪性腫瘍の診断には、適切な標本を採取する必要があります。当院では、悪性リンパ腫が疑われる場合、手術中に採取されたリンパ節等の組織を、病理医が術中迅速診断を行い、適切な標本が採取できているかを確認しています。
- フローサイトメトリー検査による細胞表面マーカー検査や、院内病理での免疫染色により、各種の造血器悪性腫瘍を迅速かつ正確な診断を行える体制を整えています。

治療

- 新しく登場する各種血液疾患への新規治療薬を積極的に導入しています。
- 成人T細胞性白血病/リンパ腫(ATLL)への診断・治療に関して日本有数の経験を有しています。

造血幹細胞移植

- 病棟全体がクラス1000のバイオクリーン病棟である東病棟(22床)を有しており、根治治療である造血幹細胞移植(自家/同種(臍帯血・血縁・非血縁))を積極的に行っており、実績も日本有数の施設となりつつあります。



桜島を望むクリーンルーム

他専門分野との連携

- 放射線科と連携した腫瘍部分に集中した放射線治療が可能なトモセラピーを用いた放射線治療を行っています。
- 腎臓内科と連携し、透析治療が必要な患者さんにも、血液疾患の治療を行っています。
- 歯科口腔外科と連携し、原疾患・治療に伴う白血球減少期の感染リスク低減に努めています。
- 精神科と連携し、精神疾患を有する血液疾患患者さんにも治療を行っています。



入り口は二重扉

多施設共同臨床試験や治験への参加

- 新しい治療を受ける機会や、「新しいくすり」を誕生させる社会貢献につながる治験へ積極的に参加しています。
- 既に使用されている薬剤を使用した新しい治療法が有効かを確認したり、新規検査方法の有用性について確認したりする全国的な臨床試験へ積極的に参加しています。



8F東病棟(クリーンルーム)

診療科実績

過去5年間の造血幹細胞移植例数(2017~2021年)

			2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
同種移植	血縁	骨髄	2	0	3	3	1
		末梢血	3	5	6	3	3
	非血縁	骨髄	1	1	7	1	1
		臍帯血	31	27	34	36	42
自家移植	末梢血	10	12	13	6	15	
計			47	45	63	49	62

過去3年間の 外来初診患者数 外来化学療法件数(2019~2021年)

	2019年	2020年	2021年
外来初診患者数	471	422	454
外来化学療法件数	935	783	808